

Casting  Our Eyes
on the Future

視線はまっすぐ未来へ



Financial Report

第93期年次報告書

平成25年4月1日～平成26年3月31日



Ahresty

株式会社 アーレスティ

証券コード：5852

Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research (研究・開発)、Service (サービス)、Technology (技術) において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting” は、“投げかける” という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting” の意味も込めています。

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

製品別概要

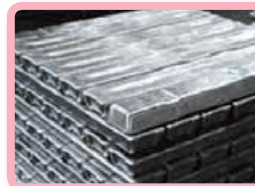


ダイカスト事業

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を製造・販売しています。

アルミニウム事業

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を製造・販売しています。



完成品事業

コンピュータールーム、クリーンルームなどの建築用床材料等を製造・販売しています。



(a:resti)

これからは、より質の高い
 Research、Service、Technologyを
 追求していきます。

アーレスティはR・S・T、Research、Service、Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、Rは単に研究・開発だけでなく、どうしたらもっとお客様のお役に立てるかの創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点で、そしてTはこのRとSをささえる知識と技術を考えています。この社名に込められた企業理念を大切に生かし、様々な製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

CONTENTS

株主の皆様へ	2
経営基本方針	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
事業の概況	5
事業別の概況	6
連結財務諸表	7~8
トピックス	9
株式情報・会社の概要・株主メモ	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第93期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の事業の概要につきまして、ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいりたい所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月



代表取締役社長

高橋 新

経営
基本方針

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、
品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

(1) 経営の基本方針

当社の社名アーレスティは、ResearchのR、ServiceのS、TechnologyのTを続けて読んだものであります。Researchとは絶えることのない新技術・新市場・新しい販売方法の開発・研究調査、Serviceとは人と人とのふれあいのなかで本当に行き届いた温かいサービス、Technologyとは世の中に役立つ真によいものをハードとソフトも含めて創ってゆく技術を意味します。このRとSとTは、お互いに深く支え合いながら、お互いをよりすばらしいものへと磨きあっていくという有機的な関係にあります。私たちは、このような考えのもとにResearch、Service、Technologyを統合した思想を企業理念として「アーレスティ」を社名としております。

当社の長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ10年ビジョン」では「ダイカストを核としたグローバルTOP企業」となることを基本方針に、「ものづくりを究め、ものづくりを

進化させる」ことをスローガンとしてあるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定めております。

この10年ビジョンをベースに中期経営方針では、より具体的な施策・目標値を設定し、さらに部門方針へと展開して全社的な活動を推進しております。なお2016年度の目標値は、売上高：1,430億円、売上高営業利益率：5%、総資産当期純利益率：3%、株主資本当期純利益率：7%としております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとするすべてのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を伴った経営体制を確立することで、当社グループ全体での収益力の拡大と企業価値の増大を目指しております。さらには内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グルー

プ子会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針と考え、重要な経営課題であると認識しております。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員及び従業員は、自らの行動又は業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

環境方針

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ②廃棄物の再資源化100%を維持します。
 - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④CO₂排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
 - ⑤環境に配慮した製品および商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的にを行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

事業の概況

Financial Highlights

■企業集団の事業の経過及び成果

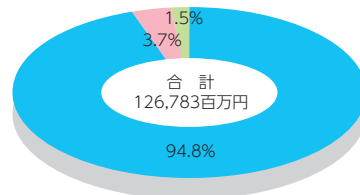
当連結会計年度におけるわが国経済は、経済政策、金融政策の効果等を背景に個人消費が持ち直すとともに、一部に消費税率引き上げに伴う駆け込み需要もみられ、生産も増加し企業業績は大企業を中心に改善がみられる等、景気は回復基調で推移しました。

海外においては、アメリカの景気は緩やかな回復傾向にあり、先行きは金融緩和の縮小による影響等に留意する必要があるものの、緩やかな回復が続くことが期待されます。中国では景気は緩やかに拡大しており、先行きは輸出や金融市場の動向等によって景気の下振れリスクが懸念されるものの、緩やかな拡大傾向が続くと見込まれます。インドでは景気は底ばい状態となっており、先行きは低めの成長にとどまることが見込まれます。

このような環境の中で、当社グループではグローバルでのダイカスト需要増に対応するため、北米及びアジアの生産能力拡充を進めました。

当連結会計年度の業績については、売上高は126,783百万円（前期比19.7%増）、営業利益は4,449百万円（前期比346.1%増）、経常利益は4,012百万円（前期比464.0%増）、旧浜松工場の跡地の売却による特別利益を計上したこと等により、当期純利益は6,272百万円（前期は当期純損失167百万円）となりました。

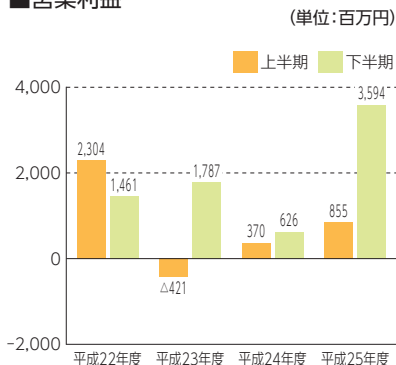
■事業別売上上の状況



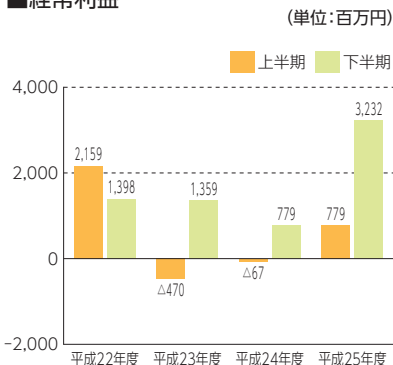
ダイカスト	120,277百万円
アルミニウム	4,657百万円
完成品	1,848百万円

■業績の推移 (連結)

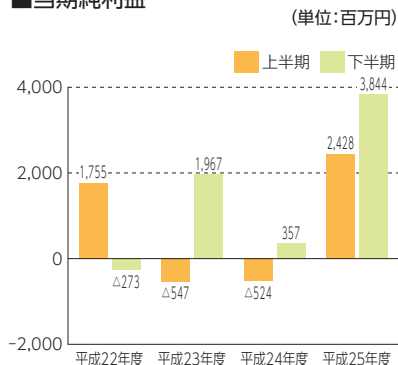
■営業利益



■経常利益



■当期純利益



事業別の概況

Financial Highlights

ダイカスト事業

① ダイカスト事業 日本

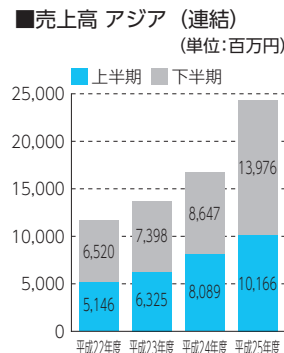
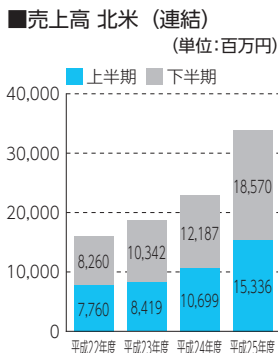
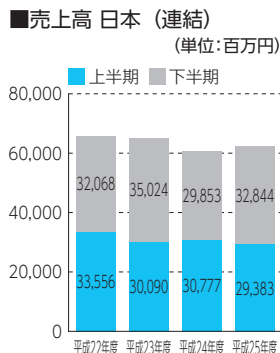
国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、上期ではエコカー補助金の終了等による生産の減少があったものの、通期で見ると、消費増税前の駆け込み需要対応、また、好調な北米市場向け生産、日中関係の動向を受けて落ち込んだ中国市場向けの生産回復もあり、当社でもこれらの影響を受け、売上高は62,228百万円（前期比2.6%増）となりました。収益面においては、減価償却方法の変更及び生産性改善等によりセグメントの利益は3,656百万円（前期比507.9%増）となりました。

② ダイカスト事業 北米

北米では、アメリカでの好調な自動車販売の影響を受けた受注の増加や円安による為替換算影響等により、売上高は33,906百万円（前期比48.1%増）となりました。収益面においては、設備投資による固定費の増加影響等により、セグメントの利益は509百万円（前期比31.7%減）となりました。

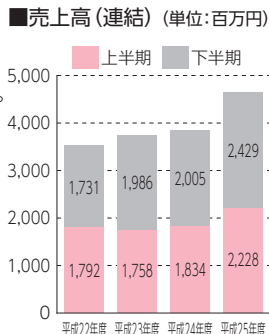
③ ダイカスト事業 アジア

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーにおいて、日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が回復しつつあることにより、当社においても受注が増加しました。また、インドでは、新規製品の量産本格化により受注が増加しました。これらの要因に加え円安による為替換算影響により、アジアでの売上高は24,143百万円（前期比44.3%増）となりました。収益面においては、中国でのロイヤルティ料率変更の影響やインド及び中国での先行投資による固定費の増加影響等があったものの、主に売上高の増加に伴う増益により、セグメントの利益は180百万円（前期はセグメントの損失521百万円）となりました。



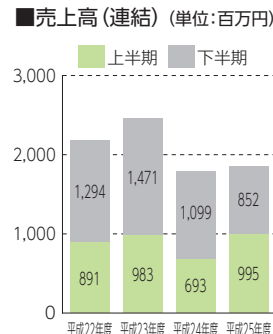
アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、販売価格の上昇及び受注量が堅調に推移したことにより、売上高は4,657百万円（前期比21.3%増）となりました。収益面においては、原材料高騰に販売価格が追随し切れないことに加えて重油・電気・ガス等エネルギー費高騰もあって、セグメントの損失は6百万円（前期はセグメントの利益50百万円）となりました。



完成品事業

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により、売上高は1,848百万円（前期比3.1%増）となりました。収益面においては、価格競争の激化によりセグメントの利益は66百万円（前期比14.7%減）となりました。



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期	科 目	当 期	前 期
	平成26年3月31日現在	平成25年3月31日現在		平成26年3月31日現在	平成25年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	48,920	37,153	流 動 負 債	46,841	40,143
現 金 及 び 預 金	8,791	6,087	支 払 手 形 及 び 買 掛 金	15,140	12,418
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	25,924	18,620	電 子 記 録 債 務	4,574	3,583
商 品 及 び 製 品	3,303	2,777	短 期 借 入 金	6,676	6,315
仕 掛 品	4,062	3,999	1年内返済予定の長期借入金	9,848	9,406
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	3,171	2,641	未 払 法 人 税 等	1,526	270
繰 延 税 金 資 産	1,423	1,255	賞 与 引 当 金	1,254	930
そ の 他	2,243	1,772	役 員 賞 与 引 当 金	28	-
貸 倒 引 当 金	△ 1	△ 1	事 業 構 造 改 善 引 当 金	-	196
			製 品 保 証 引 当 金	180	189
			そ の 他	7,612	6,831
固 定 資 産	88,313	73,599	固 定 負 債	35,800	31,273
有 形 固 定 資 産	78,208	65,150	長 期 借 入 金	26,490	22,941
建 物 及 び 構 築 物 (純額)	14,710	11,749	繰 延 税 金 負 債	3,197	3,428
機 械 装 置 及 び 運 搬 具 (純額)	40,813	30,171	退 職 給 付 引 当 金	-	3,919
工 具、器 具 及 び 備 品 (純額)	6,760	4,515	退 職 給 付 に 係 る 負 債	4,913	-
土 地	5,252	5,743	そ の 他	1,199	984
リ ー ス 資 産 (純額)	807	681	負 債 合 計	82,641	71,416
建 設 仮 勘 定	9,862	12,289	純 資 産 の 部		
無 形 固 定 資 産	1,340	984	株 主 資 本	48,851	39,100
投 資 其 他 の 資 産	8,764	7,464	資 本 金	6,939	5,117
投 資 有 価 証 券	5,964	5,956	資 本 剰 余 金	10,180	8,359
繰 延 税 金 資 産	2,145	1,258	利 益 剰 余 金	32,035	25,944
そ の 他	655	251	自 己 株 式	△ 304	△ 320
貸 倒 引 当 金	△ 0	△ 1	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	5,661	161
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	2,540	2,365
			為 替 換 算 調 整 勘 定	3,660	△ 2,203
			退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	△ 539	-
			新 株 予 約 権	79	73
資 産 合 計	137,233	110,752	純 資 産 合 計	54,592	39,335
			負 債 純 資 産 合 計	137,233	110,752

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売 上 高	126,783	105,887
売 上 原 価	112,562	95,533
売 上 総 利 益	14,220	10,354
販売費及び一般管理費	9,771	9,356
営 業 利 益	4,449	997
営 業 外 収 益	790	693
受 取 利 息	10	24
受 取 配 当 金	120	107
ス ク ラ ッ プ 売 却 益	102	76
為 替 差 益	474	351
そ の 他	82	133
営 業 外 費 用	1,227	979
支 払 利 息	1,054	812
そ の 他	173	167
経 常 利 益	4,012	711
特 別 利 益	3,161	175
固 定 資 産 売 却 益	2,288	4
投 資 有 価 証 券 売 却 益	838	-
補 助 金 収 入	35	171
特 別 損 失	166	158
固 定 資 産 除 売 却 損	156	158
投 資 有 価 証 券 売 却 損	9	-
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	7,007	728
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,650	857
法 人 税 等 調 整 額	△ 915	37
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失 (△)	6,272	△ 167
当 期 純 利 益 又 は 当 期 純 損 失 (△)	6,272	△ 167

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,835	13,696
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,671	△ 18,548
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,012	3,715
現金及び現金同等物に係る換算差額	526	535
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,704	△ 601
現金及び現金同等物の期首残高	6,087	6,688
現金及び現金同等物の期末残高	8,791	6,087

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

Topics

東京証券取引所市場第2部から同市場第1部銘柄に指定

1961年の東証2部上場から53年、2014年3月7日付で1部に指定変更いたしました。
これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。
自信と誇りをもって、さらにものづくりを究め、成長を進めたいと思っております。



本店（本社）及び東京本社を移転



本社・テクニカルセンター
(敷地面積:90,333㎡、事務所棟:7,558㎡)

2013年6月20日開催の第92回定時株主総会決議に基づき、主力事業であるダイカスト事業をより効率的に展開、拡大するため2013年10月1日付で、本店の所在地を東京都中野区から、東海工場及びテクニカルセンターが所在する愛知県豊橋市に移転し、テクニカルセンターを本社・テクニカルセンターといたしました。また、旧本社は東京本社と名称変更し、2014年2月17日に中野区中央から同区本町に移転しました。

株式情報・会社の概要・株主メモ

Stock Information・Corporate Information

■株式状況（平成26年3月31日現在）

● 株式数及び株主数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	26,027,720株
株主数	5,502名

■大株主（上位10名）

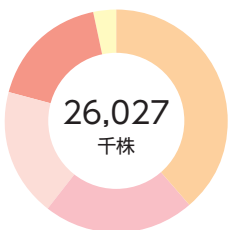
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1,385	5.3
高橋新	915	3.5
(株)三菱東京UFJ銀行	765	2.9
本田技研工業(株)	672	2.6
日本軽金属(株)	657	2.5
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION-CLIENT ACCOUNT	647	2.5
MSCO CUSTOMER SECURITIES	618	2.3
ザバンク オブ ニューヨーク ジャスティック ノン トリーティー アカウト	591	2.2
アーレスティ取引先持株会	574	2.2
スズキ(株)	565	2.1

(注) 1. 株数数は千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は自己株式(203,106株)を控除して計算しております。

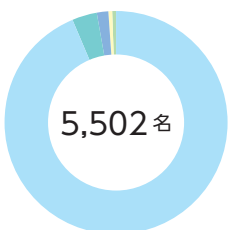
■所有者別株式分布状況

個人その他	38.7%
外国法人等	22.0%
その他法人	18.5%
金融機関	17.7%
金融商品取引業者	3.1%



■所有者別株主分布状況

個人その他	93.7%
その他法人	3.6%
外国法人等	1.7%
金融機関	0.6%
金融商品取引業者	0.4%



■会社概要（平成26年3月31日現在）

商号	株式会社 アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	69億3,909万円
従業員数(単独)	891名

企業集団の従業員の状況

	従業員数
ダイカスト事業日本	2,082名
ダイカスト事業北米	2,202名
ダイカスト事業アジア	2,594名
アルミニウム事業	53名
完成品事業	31名
全社(共通)	82名
計	7,044名

取締役及び監査役（平成26年6月19日現在）

代表取締役社長	高橋新	常勤監査役	見目康夫
取締役	石丸博	常勤監査役	古屋茂
取締役	野中賢一	社外監査役	早乙女唯
取締役	蒲生新	社外監査役	志藤昭
社外取締役	原隆		

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ahresty.co.jp

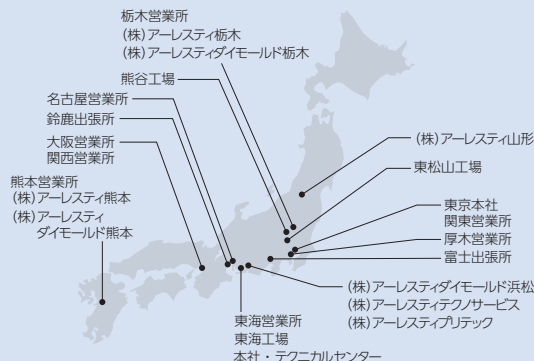
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■事業拠点一覧 (平成26年3月31日現在)

国内ネットワーク



海外ネットワーク



当社ホームページ

<http://www.ahresty.co.jp>

当社ホームページの「IR情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。あわせてご覧ください。

Research Service Technology

株式会社 アレスティ

東京本社

〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1 中野坂上サンプライトツイン5F
TEL.03-6369-8660 FAX.03-6369-8660

本社 (本店)

〒441-3114 愛知県豊橋市三弥町中原1番2号
TEL.0532-65-2170 FAX.0532-65-2163



ISO14001:2004認証取得

EMS Registration
 JUSE-EG-048
 本社・テクニカルセンター、東京本社、東海工場、東松山工場、熊谷工場、株式会社アレスティ栃木、株式会社アレスティ熊本、株式会社アレスティ山形、株式会社アレスティプリテック、株式会社アレスティテクノサービス、株式会社アレスティダイモールド浜松、株式会社アレスティダイモールド熊本、株式会社アレスティダイモールド熊本



ISO9001:2008認証取得

JQA-QMA1412
 本社 (但し、商品営業部を除く)、テクニカルセンター、東海工場、東松山工場、熊谷工場、株式会社アレスティ栃木、株式会社アレスティ熊本、株式会社アレスティ山形、株式会社アレスティプリテック



ISO9001:2008認証取得

JUSE-RA-057
 商品営業部及び関連組織 (品質管理部、経営企画部、ヒューマンリソース部)



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。